



明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

船越税理士事務所一同



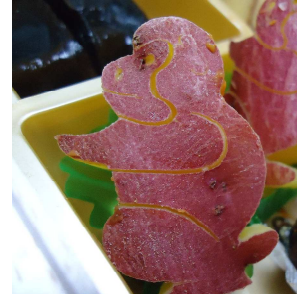
今年のテーマは「食べ初め」
メンバーの元旦の食事風景です。



今年も「プリン体
と戦う乳酸菌」と
共に生きていきま
す。でも、なんで
おせち料理の魚卵
系って、あんなに
お酒に合うんでし
ょう？（船越）



我が家の雑
煮です。今
年は私が作
りました。
（土手）



申年は、「申（サ
ル）」が「去る」と
いう意味を表し、
悪いことが去り
幸せがやってくる
年とする一説
があるそうです。
おせちの中に『さ
つまいも』の申を
見つけて、美味し
くいただきました。
（西村）



新年あけて一発目！普通にみか
ん食べてしまった…。でも冬みか
ん食べたくありません？（和田）



朝七時です。丸餅ぜんざいです。（足達）



神様から力をも
らって元気に1年
を過ごせるよう
に、白味噌仕立て
の御雑煮を味わ
いました。（牧野）

偉大なる日本の100人に学ぶ 人の心を魅了する生き方。

【天性のリーダー：徳川吉宗】

徳川幕府「中興の祖」といわれた徳川吉宗は1684年、紀州徳川家の四男として生まれました。当時の厳しい身分制度では、四男は領地をもつことはできず跡継ぎにはなれない立場でしたが、幼い頃から5代将軍・綱吉に可能性を見出され、越前に3万石を得て大名となります。その後、紀州藩を継いだ兄たちが立て続けに死去したために若くして紀州藩5代藩主となります。このとき紀州藩の財政は火の車でしたが、徹底した緊縮財政を敢行し財政立て直しに成功します。質素倹約を徹底する一方で、米の増産を図ったりミカンや醤油など特産品を奨励して収入を増やす策も講じました。その手腕は高く評価され広く世に知れ渡ることとなります。そして31歳で8代目将軍に就任、徳川御三家から初の将軍となりました。この頃、幕府の財政もまたひっ迫していました。吉宗は財政再建はもとより、行政制度全般にわたる構造改革に乗り出します。倹約令や新田開発、米価の調整といった経済政策に加え、法制整備、目安箱による民意の吸い上げなど多方面で改革を進めます。また身分を超えた人材登用も積極的に行いました。「全徳の人は得難し、一失あれば一徳あり。一善あれば一過はゆるすべきなり」という言葉には、人材活用を得意とした吉宗の考えが凝縮されているようです。まさに剛と柔を併せ持った天性のリーダーでしょう。



今を生きる

先人の言葉

自分に出会えない人は
他者とも出会えない

映画監督である伊丹十三の言葉。他人について詮索するより、まずは自己の主体性を確立することが最優先である。そこには無限の可能性が潜んでいるはずだから。

今さら聞けない **経済用語**

【今月の教えてキーワード：セーフガード】

農産物や工業製品に対する輸入制限措置のこと。輸入量の急増により国内の産業に大きな損害を与えることが懸念され、なおかつ国民経済上で緊急の必要性が認められる場合には、一時的に関税を引き上げたり輸入量を制限できる。日本では２００１年にネギや生シイタケなどの輸入量が急増して暫定的に発動したことがある。世界貿易機関の協定で認められている措置だが、報復関税や保護主義化、貿易紛争への発展という懸念もある。

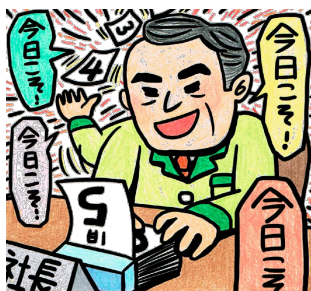


今月の商売のヒント：【「今年こそ！」から「今日こそ！」へ】

お正月の風景もずいぶん様変わりしました。例えば福袋。かつては「お楽しみ」だった中身があらかじめ公開され、今は「お得感」や「実用性」に重きが置かれているものも多いです。「福」の意味や価値も時代や世相を反映して変わってきたのでしょう。しかし、「今年こそ！」と新年に誓いを立てたり、新しいことを始めたりするのは人の習いとして今も昔も変わりません。時間の区切り方は色々でも、希望や期待を思わせる「新年」は事始めにもっともふさわしい区切りではないでしょうか。



大正から昭和にかけて活躍した作家の吉屋信子さんは、新年の思いを暦に託して「初暦 知らぬ月日の 美しく」と詠みました。まっさらなノート、まっさらなシャツ、色々な「まっさら」がありますが、まだめくられていない初暦ほど「まっさら」という言葉が似合うものはないでしょう。まっさらな暦には、まっさらな日々が眠っています。まっさらな日々には、まっさらな時間が詰まっています。今日から先は未知の世界であり、そこには個々の未来が静かに横たわっているのです。商売をしていればままならないことの連続ですが、暦を一枚めくれば



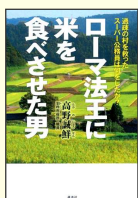
その日は「過去」になり、その下には希望や期待で輝きながら目覚めのときを待つ「まっさらな未来」がほほ笑んでいるのです。

商売は長丁場。行き当たりばったりで続けていけるものではありません。経営には長期的な展望や戦略が必要だとされますし、実際にその通りでしょう。しかしながらこれだけ時代のサイクルが速くなると、どれだけ長期的な目標を明確にしても 10 年後の社会情勢や環境がどうなっているかは誰も知る由はありません。

今の時代には、少し先を見ながら「今年こそ！」を「今日こそ！」に替えて、暦を一枚ずつめくっていく感覚が似合っているように思えてなりません。初暦は未知の宝庫のようなものです。商売の成功や人生の充実というものは、「今日こそ！」の積み重ねの先にあるのかもしれませんがね。

トナリの

本棚



【ローマ法王に 米を食べさせた男】

ローマ法王に日本の米を献上した話をご存知でしょうか。これはブランド米で過疎の村をよみがえらせた市役所職員、高野誠鮮さんの記録です。「成功するまで失敗し続ければいい」と高野さん。勇気が湧きます！

船越税理士事務所

T 620-0054

京都府福知山市末広町1-1-1 中川ビル3階

TEL:0773-22-3708 FAX:0773-22-7343

<http://www.f-office301.com>

E-mail : info@f-office301.com

皆様のご感想をお待ちしております😊😊😊😊😊😊😊😊